



臨床検査ニュース

平成 14 年 12 月 24 日

末梢血液検査 迅速化と再検査

中央検査部では検体検査の迅速化を進めています。一般検査としてオーダーした末梢血液検体が、検査部に提出されてから約 1 時間で、結果が病棟・外来のコンピューター端末で確認できることを目標にしています。血球のカウントは多くの検体を短時間で処理できる自動血球分析装置を用いています。しかし血液が凝集している、幼若な血球が存在するなどの場合に、目視法と違って正確に数えられないことがあります。検体の問題を見逃さないよう、また特別な病態の患者さんの検体を正確に把握するために、基準値から大きくはずれた検体につきましては、前回値も参考にして再検査を行っています。

以下に再検査の 1 例を紹介します。

内科入院中の HR さん

	12 月 9 日	変動 %	12 月 6 日
白血球数(μl)	5,100		3,000
赤血球数($\times 10^4 \mu\text{l}$)	156	40%	315
MCHC(%)	36.5	10%	33.0
血小板数(μl)	7,4000		9,5000

赤血球数が $200 \times 10^4 \mu\text{l}$ 以下で、MCHC が 36% 以上と基準値から大きくはずれています。そこで前回値である 12 月 6 日の値からの変動率を確認します。赤血球数、MCHC の変動%が一定の基準以上のため、再検査を行うことになりました。目視法で確認したところ、検体が一部凝固していたため、病棟へ連絡し検体の採り直しをしてもらいました。

再検査にあたっては必要であれば目視法でも確認をしています。上記の例のようにある基準でリストアップされて再検査を行っている時には、画面内の結果の横に「再検中」と表示されています。検査結果を臨床上の重要な判断に用いる場合、「再検中」表示中の検査値が臨床状態から考えにくいと判断された場合などは、「再検中」という表示が消えて固定されるまで待つ必要があります。

中央検査部 血液検査室 一条 武彦
臨床検査医学教室 検査専門医 腰原 公人
内線 3559 PB-323

(Clinical Test News No.10/2002. 12)